

市民の皆さんと市長が直接話し合い、市政全般にわたり広く意見交換する目的で、昨年7月から12月にかけて「市政懇談会」を開催しました。市内16会場で開催し、市民613人のご参加をいただきました。ありがとうございました。

市民の方々からいただいたご意見の中で、対応できたことの一部を報告します。

**【市民のご意見】7月18日 西武蔵地区 市政懇談会**

市道鳥越中村線の頂上まで1.7kmほどですが、側溝が土砂や落ち葉で埋まり、大雨が降れば山の中を雨水が川のように流れます。道路の下に民家が5軒ほどあるので、市での対応を検討してください。



▲作業の様子

**【市の対応】担当部署：建設課・安岐地域産業建設課**

市道の管理については、通常は地元の方をお願いしております。しかし、どうしても地元で管理が困難な箇所については、国の緊急雇用対策事業を活用して、市が道路にかぶさる枝の除去や側溝の清掃作業を行っています。

ご意見の箇所は、7月22日に地元区長さんら立ち会いのもと現地を確認し、12月に作業が完了いたしました。

問い合わせ 秘書広報課 ☎ 0978 - 72 - 1111(内線 204)

**市長日記**

**歌舞伎「白浪五人男」裏話**

国東市長 三河 明史

11月 17日

「国見歌舞伎保存会」が、今年で結成20年をむかえ記念公演を開催することにしました。ところが、いつの間にか私を含めた5人が、その記念公演で「白浪五人男」を演じることになってしまいました。早くからセリフを書いた紙を渡されていましたが、仕事にかまけてよく読みもしないまま、あつという間に公演2週間前になり慌てての稽古となりました。

保存会事務局の信原英治さんの熱心な指導で一生懸命稽古をしましたが、何せ皆さん役職を持つ多忙の身。アストくにさき会議室とアストホール舞台の計2回の稽古しかできませんでした。しかも5人全員が揃ったのは、開演の1時間半前という慌ただしさでした。私は歌舞伎はもちろん、舞台も初めてだったので、見えを切るのも様にならず、セリフも移動の車の中や風呂の中で懸命に覚えましたが、若い時と違って覚えが悪いのです。

当日、着替え前に初めて5人揃っての稽古ができましたが、皆さん、セリフを忘れてしまった時のためにいろいろ工夫しているのです。傘の柄にセリフを貼り付けている人、セリフを書いた膏葉を手の甲に貼り付けている人。私も急に不安になり、セリフを書いた紙を傘の内側に貼り付けました。いわゆるカンニングテープです。ところが、傘を開いてみると眼鏡を外した私には、字がぼやけて見えません。涙ぐましい努力にもかかわらず、結局、何の役にも立ちませんでした。不安を抱えながらも出番が来て、順番に舞台に出て行きましたが、いざ舞台上立つと不思議と腹が据わるものですね。しかも、厚化粧をしていながら、何となく別人になったような気分でした。拍手やら笑いやらをいただきながら、何とか「白浪五人男」を演じられました。舞台から降りる時は、何か清々しい気分でした。

出演させていただいた堀田一則会長や、熱心に指導してくださった信原さんに感謝するとともに、懸命に伝統芸能を守っている国見歌舞伎保存会の皆さんに拍手を送ります。



人権シリーズ vol.92

**第12回武蔵町 人権フェスティバル**

「心をつなぐまちづくり」

12月7日(土)に開催しました、「第12回武蔵町人権フェスティバル」で発表された作品を紹介いたします。

**「まずは自分から」**

武蔵中学校三年 徳元 美祐希



▲発表する徳元美祐希さん

私は、祖父と祖母と一緒に住んでいます。二人には、小さい頃からよくお世話になっています。祖父と一緒に遊んでくれたり、何かあった時はすぐに迎えに来てくれたりします。特に記憶に残っているのは小学校の頃です。私は熱が出て、早退することになりました。その時も電話をかけたらずに迎えに来てくれ、病院に連れて行ってくれました。母は富来の方で仕事をしていたので、祖父がいてくれてよかったです。おかげで、すぐに病院に行くことができました。祖母はいつも優しく、何でも教えてくれます。祖母の作る料理はとてもおいしく、また食べたくなります。周囲のこともよく考えていて、私の尊敬する人でもあります。

そんな祖父も祖母も年をとり、二人とも七〇歳を越えました。「足が痛い」「首が痛い」などよく聞くようになりました。年をとったんだなあと改めて感じました。祖父は前より耳が遠くなり、「二回では聞きとりにくくなっていました。最初のうちは何度か「えっ？」って聞き返されても、ちゃんと答えていた私も、だんだんイライラしてきて、何度も聞き返されると答えなくなりました。

でもある日、母から、「美祐希は早口で話すけん聞きとれん時があるわー。もう少しゆっくり話して。」と言われました。私はそう言われて、「自分が早口で話すから伝わらないのか」と思いました。祖父が年をとったというのもあるけれど、母にとっても聞きとりにくかったというのを聞いたら、自分にも原因があることに気づかされました。祖母は目が悪くなっている、「そこそこ」と言っても、「どこそこ」と言うようになりました。「そこにあるのに、何で分からないの?」と思いました。

私は、祖父が聞きとれず、何回も聞き返してきた時に「もういい」とよく言っていました。でもよく考えてみると、自分もそんなことを言われて話してくれなかったら、相手が何を言いたかったのか気になるし、やっぱりいやな気持ちになります。祖母に

**お知らせ**

☆同和問題学習会(隣保館)

日時 平成26年1月16日(木) 午後2時

講師 豊後高田市教育委員会 社会教育指導員 安東 正洋 さん

演題 「身近な人権について」

問い合わせ 国東市隣保館

国東市武蔵町古市1138番地1

☎ 0978-68-11722

も呆れた態度をとったことがありました。それもやっぱり、いやな気持ちになります。私は、何事もまず、自分がされたら、言われたらどう思うか、自分に置き換えてみるのが大切だと思いました。「誰か」じゃなくて自分はどうなのか。自分に原因があったらそこから直していきたいと思いました。

野菜を作って「美祐希においしいものを食べてもらいたい。」と言ってくれた祖父。毎日笑顔で「いつてらっしゃい。」と送り出してくれる祖母。毎日のことで気づかないこともたくさんあるけれど、少しでも気づいて、感謝していきたいです。これからは、何度でも分かってもらえるまで伝えていこうと思います。「短気は損気」という祖母の名言、今なら分かる気がします。

☆叱るより誉める姿勢に育てられ

☆無理強いをしてお残る形見分け

国東町 花木 英明

安岐町 浜木 棉 撫子(ペンネーム)

第7回国東市隣保館まつり「こころの川柳」入選作品